

7月31日(金)発行

当日の感動を
すぐお届け!!

ほぼ

日刊サマーミュージック

Hobo Nikkan Summer Muza



真夏の"午後"の夢 洗練された美しい響きに魅了!

7月30日(木) 読売日本交響楽団 撮影：青柳聡

フェスタサマーミュージックの特徴のひとつに、様々な聴衆のライフスタイルに合った柔軟な演奏会の在り方があげられると思う。平日午後の公演もその一例だ。読売日本交響楽団が木曜日午後3時の公演に登場した。指揮は、ル・セルクル・ドゥ・ラルモニーを率いるなど古楽での活躍が目覚ましいフランスの若手、ジェレミー・ローレル。オール・メンデルスゾーン・プログラムがなかなか凝っている。

1曲目は「真夏の夜の夢」序曲。ローレルはオーケストラから澄んだ響きを引き出す。驚か

せるようなフォルテや荒っぽい強奏はない。丁寧に緻密に洗練された音楽を作り上げていく。続くヴァイオリン協奏曲では、ドイツ出身の若手、ヴェロニカ・エーベルレが独奏を務めた。彼女は、リサ・パティア・シュヴィリ、アラベラ・美歩・シュタインバッハー、ユリア・フィッシャーらを育てたことで知られる名教師アナ・チュマチェンコの門下生。既にN響の定期に3度登場するなど日本でもお馴染みだ。今日も清らかな美音を披露。技巧に安定感がある。第2楽章では弱音表現が印象に残り、終楽章では

素晴らしい大団円を築いた。最後は交響曲第4番「イタリア」。ローレルの描くこの交響曲は、「イタリア」のイメージから離れ、とても器楽的に感じられた。響きが澄んでいて、爽やか。読売日響もコンサートマスター、ダニエル・ゲーデのもと、堅実なアンサンブル。「真夏の午後の夢」にはぴったりの演奏だったかも。



プレコンサート
音楽評論家 山田治生



マエストロ：ジェレミー・ローレル
ヴァイオリン：ヴェロニカ・エーベルレ
終演後、お二人からサインをいただきました。

7/30 読売日本交響楽団

お客様の声から♪

真夏の屋下りのメンデルスゾーン祭り、読響の重厚サウンドでプレコンサートからフルで楽しませていただきました！午後の眠気も吹き飛びました(笑)(45歳・会社員・ぜぶら)ノリノリの指揮者がとてもかっこよかったです。(20歳・学生・とす)Sym4:凄いの一言。こんなに凄いの「イタリア」は初めて。(61歳・無職・M・Y)初めて聴く指揮者、ソリストでした。ダニエル・ゲーデの「ソロ」がプレ・コンサートで聴けて、お得意感いっぱいだった。(67歳・会社員・タクちゃん)ノリノリで、指揮者の顔が見えて良い。楽団員の様子を上から見るのも面白い。(54歳・アルバイト・Sarara)

19歳の気鋭レビュアー拓やん、サマーミュージックを往く!



平岡拓也・大学生(19)

爽やかにして味の濃いメンデルスゾーン・プロ 読売日本交響楽団

「真夏の夜の夢」「ヴァイオリン協奏曲」「イタリア」と来れば、早熟の天才作曲家のエッセンスを凝縮したプログラムに間違いない。(プレコンサートも彼の弦楽八重奏曲!)とはいえ、古楽界の俊英ジェレミー・ローレルと読響が披露した演奏はルーティンとは程遠い刺激に富んでいた。

冒頭の序曲、後半の交響曲ともにローレルの澁刺とした音

楽の運びが印象的。それでいてリズムと勢いに終始せず、硬軟取り混ぜたフレーズで聴く者を飽きさせない。コンチェルトでは、肉厚な美音を存分に響かせるヴェロニカ・エーベルレを的確にサポート。ドイツ的な重厚さと高い機動力を併せ持つ読響は、二人の若き才能との共同作業を心から楽しんでいるようだった。

平岡さんのブログ「たくさん聴かな、あかんやん。」 <http://maestroinbal.blog.jp/>

夢いっぱいの「お・と・あ・そ・び」 7月21日～23日 「こどもフェスタ」レポート



0歳からのミニコンサート



楽器体験



音のワークショップ



ルッツさんの「みんなで遊ぼう!!」

こどもたちが思いっきり楽しめる企画「こどもフェスタ」が7月21日から3日間行われました。イベントは「0歳からのミニコンサート」「楽器体験」「音のワークショップ」「みんなで遊ぼう!!」。今年もたくさんの方の応募をいただきました。

その中でも、「楽器体験」はオーケストラの大半の楽器に触れられるとあって、大人気。指導者によるデモンストレーション演奏から始まりますが、その演奏だけでもウキウキ感一杯。また小さなお子さんが大きなトロンボーンを鳴らす姿は大変微笑ましく、ついついシャッターをパチリ!!

仲間とともに音楽をつくる「音のワークショップ」は、1日

かけて行われました。参加者は、テーマとなる曲の特徴的なリズムや音階を教えてもらって早速グループワーク。講師マイケルさんの楽しいパフォーマンスとお話にぐんぐん引き込まれ、集中して音探しをしたり、グループで音作りをしていく中で、意見を活発に交わしている様子でした。発表会では互いの音を聴き合って演奏。最後に聴いたテーマ曲「死の舞踏」は、ワークショップの前半に、このテーマを用いた音づくりの体験があるからこそ、初めて耳にする音楽も集中して聴けるのだと改めて感じました。

(NEKO)

パートナーショップのご紹介

エンジョイ! 川崎!!

Enjoy Kawasaki

居酒屋 なお八

ミュージア川崎1階
総合プログラムP.92
パートナーショップガイドP.9



ミュージア川崎の一角で横丁の飲食街の雰囲気を残す「40番地グルメ横丁」には、魅力的なお店が並んでいます。その中の「居酒屋なお八」に行ってきました。平日のランチはボリューム満点

のメニューが並び、なかでも「牛すじの煮込み定食」は絶品。私、お酒は一滴も飲めないのですが、そんな私でも夜になると酒好きスタッフがここに行く時はいつもついていきます。その理由は、

どの料理もとても美味しいから。グラタン皿で焼いたふわふわあつあつの「たまごオムレツ」と、濃厚なあんのなかに豆腐が隠れる「岩のり豆腐」が特におすすめです。

(た)

NEXT!! フェスタサマ-ミュージック

文・オヤマダアツシ

8/1 NHK 交響楽団の公演は、大好評につき全席完売となっております。

8月2日(日) 15:00 開演

出張! サマ-ミュージア@しんゆり
神奈川フィルハーモニー管弦楽団
【会場: 昭和音楽大学テアトロ・ジ-リ-オ・ショウワ】

指揮: 現田茂夫
ピアノ: 佐山雅弘
ヴァイオリン: 小林美恵
チェロ: 海野幹雄

会場はミュージアではありません。お間違いないよう、お願いいたします。

ガーシュウィン: ラプソディー・イン・ブルー
ラロ: スペイン交響曲
ドヴォルザーク: チェロ協奏曲 1 短調



現田茂夫



佐山雅弘



小林美恵



海野幹雄

ききどころ

一人のソリストに光が当てられ、指揮者とオーケストラが絶妙なサポートを繰り広げて世界を築く音楽、それが協奏曲(コンチェルト)。聴くべき&観るべきは楽器を操るソリストのスーパー・テクニクだが、オーケストラも時にはお祭りを盛り上げる群衆に、そして時にはすべてを受け止めるラプソディーのパートナーになるなど、キャラが変化するのだ。ノリノリ・ジャズ風味のガーシュウィン、ラテン系のパッションをふりまくり、そして聴き手の心包み込む慈愛のドヴォルザーク。お得な協奏曲の3曲セット、あなたは何れがお好み?

S: 4,000円 A: 3,000円 B: 2,000円
学生券 (25歳以下) 各席半額

友の会キャンペーン実施中

サマ-ミュージア期間中に友の会入会受付カウンターで入会された方にサマ-ミュージアオリジナルチケットホルダーをプレゼント! (～8月9日まで)
年会費3,000円でお得な6つの特典♪

友の会会員カード提示で
ミュージア川崎駐車場
1時間無料サービス



詳しくは友の会入会カウンター(ホール歓喜の広場特設カウンターもしくは5階受付)まで

ホール内
ショップで発売中

●サマ-ミュージア
チケットホルダー
640円(税込)

チケットだけでなくA4チラシ
三つ折も入ります。便利!

当日の感動をすぐお届け!!
毎日 日刊サマ-ミュージア
Hobo Nikkan Summer Muza



本日31日まで東芝未来科学館との共同企画で「夏ラボ」音と科学の実験室を開催していました。今年もスタッフも驚くほどの来場があり、家族連れで連日満員。楽器作りの工作やゆめりえが音になる不思議な体験など楽しんでいただきました。

実は、川崎市は政令指定都市の中で出生率と世帯当たりの教育にかけると、支出が第1位(2014年)! 子どもの多い街なのでミュージアの子どもプログラムはいつも盛況なんです。最初が熱心な保護者の方が情報を見つけて連れてくるのですが、そのうち子どもの方がミュージアを好きになって自分から「行きたい」と言ってくるようになります。

開館してすでに11年、幼児の頃から通う子供が小学生、中学生と成長して、何年も来てくれる。サマ-ミュージア公演でも多くの子どもたちを見かけるのが「ミュージアらしい」と思っています。

スタ
ツ
フ
日
誌